

応用練習問題 3

<解答>

問 1	(借) 切 削 部 門 費	21,540	(貸) 修 繕 部 門 費	27,000
	組 立 部 門 費	29,460	工 場 事 務 部 門 費	24,000
問 2	(借) 仕 掛 品	300,000	(貸) 切 削 部 門 費	134,540
			組 立 部 門 費	165,460
問 3	(借) 製 造 部 門 費 配 賦 差 異	540	(貸) 切 削 部 門 費	540
	組 立 部 門 費	740	製 造 部 門 費 配 賦 差 異	740

※または製造部門費配賦差異を相殺して下記のように仕訳してもよい

(借) 組 立 部 門 費	740	(貸) 切 削 部 門 費	540
		製 造 部 門 費 配 賦 差 異	200

【解説】

最終的に問われているのは問 1～3 の仕訳だが、この仕訳を行うために必要となる資料は、資料 1～4 を活用して製造間接費部門別配賦表を作成したうえでそこから得る必要がある。

また、この問題では部門別計算にあたり直接配賦法と相互配賦法のいずれを採用しているかが明記されていないが、これは資料 1 の「補助部門同士の後方支援を考慮している」という文言から相互配賦法を採用していることを読み取ったうえで解答を進める必要がある。なお、この問題は直接配賦法で解答したとしても途中の計算過程で割り切れて配賦計算が完了してしまうため、計算の途中で割り切れないことによって誤りに気付くことができないため注意が必要である。

資料 1～4 を活用して相互配賦法で製造間接費部門別配賦表を作成すると次ページのようになる。この結果、問 1～3 の仕訳は次のように考える。

問 1：補助部門費の製造部門費への振替

修繕部門費（27,000 円）と工場事務部門費（24,000 円）を第 1 次配賦と第 2 次配賦によって、切削部門費と組立部門費に振り替えるので、借方の切削部門費と組立部門費の金額は次のようになる（切削部門費：ア～エの合計、組立部門費：オ～クの合計）。

- ・ 第 1 次配賦における修繕部門費の切削部門費への配賦額：9,000 円（ア）
- ・ 第 1 次配賦における工場事務部門費の切削部門費への配賦額：9,600 円（イ）
- ・ 第 2 次配賦における修繕部門費の切削部門費への配賦額：1,500 円（ウ）
- ・ 第 2 次配賦における工場事務部門費の切削部門費への配賦額：1,440 円（エ）
- ・ 第 1 次配賦における修繕部門費の組立部門費への配賦額：15,000 円（オ）

- ・第1次配賦における工場事務部門費の組立部門費への配賦額：10,400円（カ）
- ・第2次配賦における修繕部門費の組立部門費への配賦額：2,500円（キ）
- ・第2次配賦における工場事務部門費の組立部門費への配賦額：1,560円（ク）

問2：製造部門費の仕掛品勘定への振替

問題3の部門別原価計算では300,000円の製造間接費を切削部門費と組立部門費に配賦したが、最終的には製造間接費は仕掛品に振り替えられるため切削部門費と組立部門費の合計金額を用いて仕訳を行う。その際に、借方の仕訳は、第1次配賦で切削部門と組立部門に配賦された補助部門費と、第2次配賦で配賦された補助部門費を合算して行う必要があることに注意する。

問3：製造部門費配賦差異の処理

部門費振替表より切削部門費の実際発生額が134,540円、組立部門費の実際発生額が165,460円とわかる。一方で、問題文の資料より組立部門費の予定配賦額が134,000円、組立部門費の予定配賦額が166,200円だから製造部門費配賦差異は次のようになる。

- ・切削部門費 予定配賦額134,000 < 実際発生額134,540 →540円の借方差異
 - ・組立部門費 予定配賦額166,200 > 実際発生額165,460 →740円の貸方差異
- 以上の結果から、製造部門費配賦差異を計上する仕訳を行う。

《参考：製造間接費部門別配賦表》

製造間接費部門別配賦表 (単位：円)

摘要	合計	製造部門		補助部門	
		切削部門	組立部門	修繕部門	工場事務部門
部門個別費	180,000	74,000	83,500	9,000	13,500
部門共通費					
減価償却費	90,000	30,000	37,500	15,000	7,500
電気料金	30,000	9,000	15,000	3,000	3,000
部門費	300,000	113,000	136,000	27,000	24,000
第1次配賦					
修繕部門費	27,000	9,000	15,000	—	3,000
工場事務部門費	24,000	9,600	10,400	4,000	—
第2次配賦				4,000	3,000
修繕部門費	4,000	1,500	2,500		
工場事務部門費	3,000	1,440	1,560		
製造部門費	300,000	134,540	165,460		